

タイ保健省等の「食の安全」研修

12月13日、日ASEAN（東南アジア諸国連合）医療分野招へいプログラムにより来日中のASEAN及びタイ政府関係者4名が、食品安全委員会を訪問しました。本プログラムは、ASEAN諸国から各国の医療に関する課題について、キーパーソンを招へいし、日本の知見・経験を共有することをもって、ASEANの保健医療人材育成を目指すものです。

タイはASCC（ASEAN社会・文化共同体）の「食の安全部会」の議長を務めており、食の安全強化についてASEAN内で重要な役割を担っています。今回、食の安全に係る政策形成とリスク分析（アナリシス）をテーマとして、日本の行政機関や食品業界の状況を研修しました。

食品安全委員会でも委員会を傍聴するとともに、事務局職員から食品安全委員会の概要やリスク評価事例の説明を受けました。今後の国際協力の可能性等について活発なディスカッションが交わされました。



研修員の方々と



研修の様子

学生等を対象とした「訪問学習」の受け入れを行っています

食品安全委員会では、リスクコミュニケーションの一環として毎年、学生等を対象とした「訪問学習」を受け入れています。10月28日には、慶應義塾大学医学部の学生9名を受け入れました。

当日はまず、「食品の安全性を確保するために」と題して、食品の安全性の確保について国際的に合意されて

いるリスク分析（アナリシス）の考え方と、それに基づく我が国の食品安全行政の仕組、またリスク評価機関である食品安全委員会の役割や、これまでに行ったリスク評価内容の具体例などについてリスクコミュニケーション官が説明しました。

次に、医師資格を持つ評価調整官が、国際機関への勤務を含むこれまで

のキャリアや食品安全委員会での業務内容などについて話しました。

学生からは、食品安全委員会と厚生労働省との関係や、海外のリスク評価機関との業務内容の違いなどについて質問が出されるなど、活発な質疑応答が行われました。

食品安全委員会では、大学生以外に高校生や中学生の「訪問学習」も受け入れています。こうした取組を通じて学生等が食品安全委員会に関心を持ち、また知ってもらうことも「食の安全」につながると考えています。



学生たちを迎えて



意見交換の様子